

<研究成果の紹介>

小粒大麦「ファイバースノウ」の奨励(認定)品種採用

農業研究所 作物研究課

1. 成果の内容

県内の小粒(六条)大麦は、消費者の『健康志向』『地産地消』ニーズの高まりを背景に、平成20年産で約170haの作付けがあり、それを用いた製品として押し麦や麦茶が県内メーカーから市販されています。今後さらに需要の拡大が見込まれることから、「ファイバースノウ」を奨励品種に採用することで、県内産大麦加工原料の需要に応えるとともに、麦類生産の振興を図ることができます。

「ファイバースノウ」の特性は以下のとおりです。

- 1) 生育初期の草型は「やや匍匐」タイプです。ふ色は「黄」です。(図1)
- 2) 出穂期は「農林61号」並ですが、開花期は「農林61号」より6日程度早いです。成熟期は、「農林61号」より12日程度早いです(表1)。
- 3) 稈長は「カシマムギ」,「農林61号」と比較して長いですが、稈質が強く耐倒伏性に優れています。穂長は「カシマムギ」と比較して長く、穂数も多いです。

- 4) 場内試験では収量は「カシマムギ」と比較してやや多収ですが、「農林61号」よりはわずかに少収です(表2)。いなべ市では、コムギ縞萎縮病の発生により「農林61号」が県内平均反収と比較して少収ですが、「ファイバースノウ」の反収は高く安定しています。
- 5) 容積重は「カシマムギ」と比較してやや小さく、千粒重はやや大きく、タンパク質含有率はやや低いです(表2)。

2. 技術の適用効果と適用範囲

「ファイバースノウ」の普及対象地域は北勢地域で、当面の普及予定面積は約200haです。

3. 普及・利用上の問題点

- 1) 湿害に弱いため、明渠など湿害対策の実施に努めてください。
- 2) 多肥栽培は倒伏を助長するため、栽培暦に従い、適正な施肥に努めてください。

(松井未来生)



図1 立毛の様子

左:ファイバースノウ右:カシマムギ



図2 原麦の外観

左:ファイバースノウ右:カシマムギ

表1 生育特性

品 種 名	出 穂 期 (月・日)	開 花 期 (月・日)	成 熟 期 (月・日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (/m ²)	多倒 少伏 ※の I (0-5)
ファイバースノウ	4.10	4.15	5.21	111	4.6	578	0.3
カシマムギ	3.29	4.10	5.13	94	3.8	472	0.9
農林61号	4.11	4.21	6.02	106	8.9	555	1.6

三重県農業研究所(松阪市)内水田転換畑における2008,09産2カ年の試験結果。播種期:08年産2007年11月15日,09年産2008年11月13日、施肥窒素量:7-2-2kg/10a(基肥1月下旬-3月下旬)※1:倒伏の多少は、無(0)~甚(5)の6段階で評価した。

表2 収量特性

品 種 名	※精 1子 実重 (kg/a)	収量 シマ ムギ (%)	カシ マム ギ (%)	収量 シマ ムギ (%)	ワ ラ 重 (kg/a)	容 積 重 (g/L)	千 粒 重 (g)	含 タ ン パ ク 質 率 ※ (%)
ファイバースノウ	61.0	106	97	86.7	673	34.0	8.4	
カシマムギ	57.9	100	92	67.3	685	33.1	8.6	
農林61号	62.9	109	100	90.9	803	41.2	8.2	

※1精子実重および千粒重は2.2mm篩選上、水分12.5%換算。※2タンパク質含有率はケルダール法により測定した(蛋白換算係数5.70,水分13.5%換算)。